

平成26年度 外部点検 会議概要

- 1 開催日時 平成26年10月16日(木) 14:00~14:55
- 2 開催場所 市役所本館8階 第8会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 内山秀樹 委員(座長)、稲葉明美 委員、岡山宇太郎 委員、奥村清治委員、澁谷政子 委員
 - (2) 点検対象事業担当所属 消防局 管制課
 - (3) 事務局 総合政策室
- 4 点検対象事業 消防通信指令設備等運用事業
- 5 協議の概要

座長	<u>消防通信指令設備等運用事業</u> について、所管所属の <u>管制課</u> から説明をお願いする。
管制課	【説明】
座長	はじめに何をどこまで点検するか整理する。指令システムの保守に関する事業で、保守管理が大前提だと思う。事業名に「運用」が称されており、的確、迅速に出場指令が出されているかどうかまで見ていいか
管制課	そういうことになるが、これまで119番通報をとれなかったことは一度もなかった。
委員	平常時、14回線で運用しているということだが、それ以外に大規模災害時への備えは。
管制課	地震や豪雨など大規模災害が発生した場合は、このシステムとは別の対応となる。このシステムは管内の消防車を配備するためのもの。地震の場合は緊急消防援助隊や県内の各消防本部を呼ぶなど別の事務として人的に対応を行う。 しかし、例えば高速道路でバス事故、多重事故や有毒ガスなどで多数の負傷者が出ている場合には、「集団救急救助体制」という編成メニューがあり、システム上ボタン一つで対応できるようになった。
委員	災害種別ごとに対応可能ということか。
管制課	管内で対応できる事案については、災害種別ごとにメニューが設けられている。

	それ以上の規模となると、国を介して援助を要請するなどシステムを超えた対応が必要になる。
委員	このシステムは市内4署への出動指令や連絡に使われると理解してよいか。
管制課	分署、分遣所も含む。
委員	常時詰め所に待機しているわけではない消防団員への連絡手段は。
管制課	システムから自動仕分によりメール発信ができる。メールを見ていないこともあるので、別途電話で確認する。 53分団の分団長、副分団長、正機関員、副機関員が対象。各団員には分団長から連絡。
委員	会社を経営しており、サーバ導入の経費について聞きたい。初年度は高く、リース期間によって、2年、3年、5年くらいは低く、5年目以降高いというイメージがある。 このシステムの年間4~5千万円くらいというのは妥当な金額と考えているか。
管制課	6年間の総額で契約しており、毎年、均等払いをしている。 再リースすることになり、再契約すると高くなることもあるかもしれない。
委員	6年間の契約を結んでいるということか。
管制課	保守管理について6年間の長期継続契約を締結している。
委員	22年の入札には、何社入ったのか。
管制課	職種が特殊であり、全国で6社ほどしかなく、3社が応札した。
委員	21年までは年間3千万円ほどで、22年からは新しいシステムになり1.5倍ほどの金額になったが、かなり効率や成果が向上したのか。
管制課	一番大きく変わったのは、災害通報時に画面上の地図に詳細な表示ができるように管理しやすくなったこと。今までのシステムは、消防車両がどこにいるか、出動したかどうかの管理しかできず、消火栓がどこにあるのかというようなことも画面上出すことができなかった。
委員	電話があってから出場指令までの時間が短縮されたということか。
管制課	今までは電話をよく聞いて指令員が地図を出していた。現システムは自動で地図を出せるようになったので、電話を受けている途中で予告指令、出場指令を出

	<p>せるようになった。特に予告指令をすぐ出せるようになったので、現場の準備が早くでき、出場指令後、直ちに消防車を出せるようになった。</p>
委員	<p>かなり早くなったような印象を受ける。</p>
管制課	<p>10～20 秒程度だが早くなった。以前は、聞き間違い等で、街区の間違いもあったが、そういうこともなくなった。</p>
委員	<p>回線数も増えたのか。</p>
管制課	<p>回線数は変わっていない。 近年、固定電話からの通報が減り、携帯電話からの通報が増えてきた。固定電話からはある程度土地勘を持つ方が通報され、住所等位置情報等も正確。携帯電話はすぐ通報できるが、場所がはっきりしない場合も多い。 今のシステムは、地点を決定するためのデータが反映されているので、どこに何があるかという情報から地点を決定するのに役立っている。</p>
委員	<p>携帯電話の GPS を切っていると、発信元の割り出しは受信しているところから行うのか。</p>
管制課	<p>GPS の位置情報を通知しないとすると地点は出ない。アンテナの情報だと 5km 範囲。</p>
委員	<p>そういった場合には少し時間をかけて確認する必要があるということか。</p>
管制課	<p>その場合は従来どおりの手法で位置確認を行う。</p>
委員	<p>月 1 回定例会で協議を行っているが、具体的内容は。</p>
管制課	<p>細かな障害はたくさん出てくるので、いろんなことをお互いが確認している。 ソフトの障害とハードの障害に分けて、ハードについては随時対応してもらおう。例えば、出場指令書を出力するプリンターについて、出力されないようなことがあると、給紙トレーのツメ折れなどに深夜でも対応してもらい、対応と改善策について業者と、また、交替勤務のある消防内部において情報を共有するためにも定例会に上げている。 ソフトについても、実際の運用を通しての改善点をお互いにやり取りする場として毎月行っている。</p>
委員	<p>ソフト部分について微修正もしているのか。</p>
管制課	<p>している。</p>

委員	重大なトラブルに見舞われたときのためのバックアップシステムは備えているのか。
管制課	<p>コンピュータシステムであるので、二台体制で行っている。</p> <p>電話についても、UDC という 119 番を受けて音声や無線を変換して指令を流していく根幹のシステムがあるが、昨年埼玉ではこのシステムが停止し 32 分間 119 番通報が受けられないというトラブルがあった。</p> <p>福井は機構的に同様の障害は発生しない仕組みにはなっているが、3 段階のバックアップ体制をとっている。</p> <p>システムではハードディスクが壊れる可能性が一番高い。常に二台が同時に動き、一台がつぶれても片方の一台がやっていくので、正常に稼働できている。ただ、故障した場合、エラー表示はあがってくるので、その時は交換するという仕組みになっている。</p>
委員	危機管理室が所管する防災無線と連動はできるか。
管制課	できない。周波数等全く異なる。
委員	防災無線のスピーカーには、消防から情報を流すことはできないのか。
管制課	別系統で消防にも防災行政無線のシステムがある。危機管理室とも連携を取り、クマ情報は土日や早朝など緊急性がある場合は当課が放送することもある。
委員	新しいシステムでかなりよくなったことがわかった。さらに次のシステムで実現したい改善点はあるか。
管制課	<p>いろいろある。例えば、過去の入電の情報を登録する着信履歴のような電話番号登録機能はまだ持っていないが、これは高齢者からの救急通報に有用である。また、テレビ電話も技術化が進めば対応したい。</p> <p>消防無線は今後デジタル化するので、システムの改修が必要。また、デジタル化による弊害も予想されるが、弊害を少しでも減らせるようなシステムにするため業者と知恵をだしながら進めたい。</p>
委員	14 回線に 6 人で対応しているのか。
管制課	1 つの火災に 5～6 本の通報がある。回線が空いておらず、119 番かけられないのが一番困る。14 回線というのは人口に応じた規模として決められている。

～～ 委員同士での協議 ～～

～～ 総括 ～～

座長

委員の意見は全員一致しており、委員会結果は「維持」となった。

市民の安全・安心を守るシステムがバージョンアップされて高度なものになり、それが的確に運用されている。

要望としては、次の更新の際には更に高機能化することが想定されるが、市の財政も厳しい中で、業者選定の際にできるだけ費用を抑えることも考えてもらいたい。

また、システムがいくら高度化しても人的なミスがつきまとう可能性は十分あるので、人的ミスが少なくなるようトレーニングをしっかりとっていただきたい。

以上である。

平成26年度 外部点検 会議概要

- 1 開催日時 平成26年10月16日(木) 15:00~15:55
- 2 開催場所 市役所本館8階 第8会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 内山秀樹 委員(座長)、稲葉明美 委員、岡山宇太郎 委員、奥村清治 委員、澁谷政子 委員
 - (2) 点検対象事業担当所属 福祉保健部 長寿福祉課
 - (3) 事務局 総合政策室
- 4 点検対象事業 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業
- 5 協議の概要

座長	<u>高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業</u> について、所管所属の <u>長寿福祉課</u> から説明をお願いします。
長寿福祉課	【説明】
座長	ただいまの説明に対し、何か質問等はないか。
委員	市営住宅の空き状況はどうなっているのか。
長寿福祉課	高齢の方が施設に入所されるということで26室のうち1室空いた。待機者は無く、募集中である。
委員	できてから人はあまり動いていないのか。
長寿福祉課	12年目になるが、ほとんど変わっていない。施設に入られたり、亡くなられたりして数名の方が退出されたが、その都度募集を行っていた。
委員	そうすると、現在25名の方が入居されているのか。
長寿福祉課	複数で入居している方がいるので、30名入居されている。
委員	事業実績について、H24年度が多くて後は減っているようだが、どういう状況変化があったのか。
長寿福祉課	緊急時対応というのは、救急車を呼んだ件数である。生活指導・相談については、入居者の方のなかにケアを受けながら生活をしていただ方がおり、介護のケアマネージャーと頻りに連絡をとり、本人も相談をしていた。その方が退出された

	<p>ので、件数が減った。</p>
委員	<p>安否確認の件数について、単純に 365 日で割ると戸数の半分くらいになる。</p>
長寿福祉課	<p>これは祝日、年末年始、土日を除いていて、原則は全世帯を毎日行っている。長期不在など分かっている場合には行っていない。</p>
委員	<p>援助員の方の動きがイメージしにくいのだが、その建物の一室に駐在して各部屋をまわるようなイメージか。</p>
長寿福祉課	<p>そうである。まわって相談を受けたり、重たい荷物を運び入れるのを手伝ったり、ふとんを干したりなどもしている。それは、その他の件数に入っている。</p> <p>また、相談室の一部を使い、月 2 回、自治会長を通じて地元の方が集まってこられるサロンとしている。運営は自治会長が行っているが、援助員もサポートしている。</p>
委員	<p>援助員の方がふれあい公社から派遣されているということだが、長期的に関わっている方なのか。</p>
長寿福祉課	<p>途中で交代はあったが、それからは同じ職員が行っている。</p>
委員	<p>何人くらいの方がされているのか。</p>
長寿福祉課	<p>2 人の方が交代でしている。</p>
委員	<p>入居された方があまり変わっていないということなので事例はあまりないのかもしれないが、空きがあった場合、入居の条件というのはどうなっているのか。</p>
長寿福祉課	<p>まず、所得制限というところは一般の市営住宅と同じである。また、シルバーハウジングに入居できるかどうかについては、申込者本人が 60 歳以上であること、または 60 歳以上の親族 2 人以上、夫婦 2 人、60 歳以上の親子 2 人など、子どもであれば 60 歳未満でも入居できる。また、自力で食事、衣服の着脱、入浴、排便といった日常生活ができること。自炊ができるくらいに健常であり、自立していることが条件となっている。</p>
委員	<p>そうすると、生活上配慮が必要なのというところの条件はあまりないのか。自立していて要介護でないとか。</p>
長寿福祉課	<p>要介護の方もいらっしゃる。自分で食事ができる、今は宅配などもあるのでそういうものを利用したり、入浴、排便等ができれば、要介護の方でも良い。</p> <p>なお、高齢者なので、入居時にそういう条件で入られても、その後徐々に悪くなる可能性はあるが、自立できなくなったからすぐに退去というのではなく、介</p>

	<p>護制度を利用しても生活できないとなると施設に入居されることになる。</p>
委員	<p>施設に入るまでをつなぐというような感じがするが、もっとこういう施設を作 ってほしいという要望が市民から上がってきたりとかはないのか。</p>
長寿福祉課	<p>今までは要望はない。当時、国のほうでシルバーハウジングというプロジェク トを立ち上げたときに、市長の方針で福祉と住宅のサービスを一体化して、高齢 者のための住宅を考える、ひとつのモデルとしていきたいということで始まっ た。ちょうど、その時、福団地の建て替えがあり、国の補助金を使い造られた。 その後、いろいろな福祉サービスを、例えば緊急通報システム、家事援助サー ビス、見守り活動など、在宅での高齢者の安全・安心な生活を確保しようとい うことを行っている。 シルバーハウジングといった建物を増設する計画はないと、建設部から聞いて いる。</p>
委員	<p>高齢化が進んで入居したいという方が今後増えたときには、他の市営住宅や県 営住宅に行ってもらえるなどの計画はあるのか。</p>
長寿福祉課	<p>現状を申し上げると、複数で申込が合った場合には、市営住宅もバリアフリー が進んでいるので、勧めている。</p>
委員	<p>待っている人が多いイメージである。ケア付き住宅であつたら高齢者からすれ ば安心もできるし行きたいと思うはずである。それが、現在一戸空いたままとい うところが我々からすると不思議な感じである。PR が足りないのか、市営住宅に 住んでいて家賃とかもそんなに変わらないから別にいいと思っているのか、その あたりはどうなのか聞きたい。</p>
長寿福祉課	<p>空きというのがなかなかでない状況で、住むところというのはすぐにでも必要 となるものであるため、今入れるところを探して入居しているからだと思う。今 は応募がないだけではないか。市営住宅は安いイメージがあるが、ここは設備の 関係で少し高くなっている。市営住宅でも高齢化が進んでおり、高齢者世帯が 33%にまでなっている。</p>
委員	<p>S40 年代、50 年代に建てられた団地は高齢化が進んでおり、当初から入られて いる方は 70 歳近くになっている。大規模団地でもこのようなケアシステム、例 えば集会所の一角に援助員がいるとかすれば、今と同じような見守りはできな いとは思いますがそういったシステムを動かすなど行政の仕事としての支援として の話と、それから、これからどんどん高齢者が増えていくので、これまでと同じサ ービス水準でやったらパンクしてしまうと思うので、地域の見守りとかを市が管 理する市営住宅のなかで地域の住民の見守りをどうするか、セットで考えなけれ ばいけない。そのあたりの方向性の議論はしているのか。</p>

長寿福祉課	<p>福井市では市営住宅だけではなく高齢者率も増えており、一人暮らしの高齢者も多くなっている。今おっしゃられたように、見守り体制の充実というところでは、地区では民生委員、福祉委員が行っている。現在、ヤクルトとも協定を結んでおり、今後いろんな事業者とも見守り体制を整備していきたいと考えている。</p>
委員	<p>町内会的な働きかけはどうか。</p>
長寿福祉課	<p>民生委員や、福祉委員へは見守りの必要性や普段とは違うところへの気づきなど、さりげない見守りを研修させていただいている。また、福祉サービスを使っただけ、見守りにつなげていきたいと考えている。</p> <p>またシルバーハウジングの一室も集会所のように利用されている。自治会長中心に月2回集まっていたので、週に1回は、住民の介護予防にもつなげていただけたらいいと思う。他の市営住宅にも、自治会というがあるので、自治会で見守りを続けていただけるような方向に福井市としては持っていきたいと考えている。</p>
委員	<p>26戸というと、ひとつの小さな町内会みたいなものである。地域の見守りと行政の支援という、まさにモデルとしてどうあるべきかという議論を含めて、それを普通の町内にどう展開していくか、あるいは大規模市営住宅にどう転嫁していくかという実験場として、政策、立案に活かしてもらいたい。</p>
委員	<p>趣旨は良く分かったのだが、モデル的に始まったということであった。予算を見ると、福井市の予算としては30万円ほどでさびしい。この制度を広めていって、高齢化社会に対応する準備をしたほうがいいのではないかなと思う。それから、ふれあい公社の方も高齢化していくし、こういった看護をする方も不足しているので、手当てについても、今は2人で年間130万円ほどなので、これくらいの費用でやっていくことが将来的にみると厳しいのではないかなと思った。この事業をこれだけで終わりにするのではなくて、例えば他の市営団地でもこのような取り組みをする姿勢が見えたらと思うのだが。</p>
長寿福祉課	<p>生活援助員はケアマネージャーの資格を持っている。これから高齢者が増えていって、ケアマネージャーの役割は増えていくと思う。今の健康状態が落ちかけてきた方を見守っていく。また、市営住宅に拡大するというよりは、福井市全体の高齢者に対して、恐れのある方を見つけて適切な介護予防事業につなげていくことが今後考えていかなければいけない課題だと考えている。あくまでも、今後住宅を増やすことができないなかで、全体の高齢者対策の中で拡大をしていきたい。</p>
委員	<p>ハードが伴うものは維持ということ。</p>
委員	<p>従事している方は1人なのか。</p>

長寿福祉課	2人交代で行っている。
委員	その方は公社の方で、他の仕事とも兼務しているということか。
長寿福祉課	兼務している。
委員	財源について、市が徴収した介護保険料も財源に入れているということか。利用料とかではないということか。
長寿福祉課	納めていただいている介護保険料である。地域支援事業ということで、介護保険の中に位置づけられた事業ではあり、使うことができる。
委員	入居者の声や要望で把握していることがあれば教えてもらいたい。
長寿福祉課	援助員の細やかな対応には感謝の声をいただいている。一方では自身の生活があり、あまり援助員に踏み込んできてほしくないという声もある。おおむね好感をもっていただいている。要望は今のところ伺っていない。
委員	定期的にアンケートなどはとっているのか。巡回していれば自然と声は入ってくるかもしれないが。
長寿福祉課	声かけのなかで援助員がつかんだ情報については、こちらでも確認して把握している。
委員	終了予定年度を想定していないということだが、それが引っかかる。モデルケースとしてやられている内容も充実しているし、市が取り組むべき事業ということは行政しかできない事業として当然とは思いますが、モデルケース的な感覚が大きいということが気になる。
委員	モデル事業は一般化しないといけないということか。
委員	他の団地につなげていくということが見えてこない。続けていただきたい事業だが、これだけではなくて、もっと大きな枠に入ってくるのではないか。
長寿福祉課	S63年に国がだしたときにはまだサービス付き高齢者住宅とかができていなかった。福井市が行いだしたのには、介護保険制度が始まった時から。今はサービス付き高齢者住宅とかができているが、まだどれも高い。今、やめると住んでいる方に影響が大きい。この住宅は築10年くらいなので、まだ何十年かは持つなかで、今、終期を決める時期ではないと考えている。

座長

表面的には意見は別れた。維持2名、拡大1名、再構築2名となったが、考える方向性は同じであり、委員会結果としては「再構築」となった。

これから高齢化社会が進み、高齢者の見守り支援は予算的にも拡大せざるを得ないというなかで、今すぐ福団地S棟をやめるという話ではもちろんない。

福団地S棟でハードとソフト両面からモデル的に取組んできたことは画期的な事業であったと評価している。これまで運営してきた実績や経験、課題等をもう一度検証して、他の市営住宅や自治会に展開するといったことも含めて、大きな見守り支援の政策として展開していく研究、検証、検討を十分にしていきたい。

福団地を維持してくるのだけで、政策展開するという視点が足りなかったのではないかというのが意見である。

形式上は再構築となるが、今の事業を否定するものではなく、トータルに研究、検証して、予算も伴うと思うがもっと大きく政策展開していきたい。

以上である。

平成26年度 外部点検 会議概要

- 1 開催日時 平成26年10月16日(木) 16:00~17:00
- 2 開催場所 市役所本館8階 第8会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 内山秀樹 委員(座長)、稲葉明美 委員、岡山宇太郎 委員、奥村清治 委員、澁谷政子 委員
 - (2) 点検対象事業担当所属 都市戦略部 都市整備室
 - (3) 事務局 総合政策室
- 4 点検対象事業 中心市街地活性化基本計画推進事業
- 5 協議の概要

座長	<u>中心市街地活性化基本計画推進事業</u> について、所管所属の <u>都市整備室</u> から説明をお願いします。
都市整備室	【説明】
座長	ただいまの説明に対し、何か質問等はないか。
委員	本日配布いただいた中心市街地活性化基本計画の概要版については初めてみるが、いつ作成したものか。
都市整備室	H25年3月の「第2期福井市中心市街地活性化基本計画」策定時に、本編と併せてわかりやすいものとして概要版を作成したものである。
委員	数値目標もあるが、中心市街地活性化主体の数値目標か。
都市整備室	そうである。
委員	推進事業というのは、H25年度からスタートした事業を推進していくための事業であり、P・D・C・Aサイクルでいうと、C・Aの部分である。我々は、C・Aの部分について、評価するということであり、中心市街地活性化基本計画そのものを評価するわけでない。資料2ページの体系図があるが、点線の枠内がまちづくりを推進する主体としての行政と、枠外が民間である。マネジメント会議が、民間の活性化協議会だけではシビアなチェックが難しいので、第三者機関という組織でさらにチェックをかけていこうとする構図という理解でよいか。
都市整備室	第1期計画(H19年から24年)の際に、協議会から、協議会の組織自体がかな

	<p>り大きいため、進捗管理を行っていく上で細かなチェックを行える組織が必要であり、第2期計画では、マネジメント会議をきちんと設立した上で取り組む必要があるとの意見をもらった。2期計画策定にあたって、マネジメント会議を設置した。</p>
委員	<p>協議会は事業者主体であり、自分達を自分達で評価していくことでもあった。</p>
都市整備室	<p>中心市街地活性化協議会は、商工会議所の上の方、あるいは民間のまちづくりに関連する会社の社長の方々なので、忙しい方々である。</p>
委員	<p>資料に書かれている、行政から協議会に意見が行くという矢印の向きがおかしい。</p>
都市整備室	<p>間違いである。訂正をお願いします。</p>
委員	<p>民間が行うソフト事業があまり展開されていないといった状況があれば、マネジメント会議で報告されて、それが行政から協議会へと報告がいくということ。 実際滞っている場合に、どうやって動かすのか。うまくいっているケースもあるだろうが、うまくいっていないものもあるだろう。</p>
都市整備室	<p>進めていく上で、行政だけでは進めていけない。民の部分でまちづくりに対して関わっていただく上で、連携していくことが重要だと考えている。特に今年度に入って、もう少し強化していけるよう働きかけることをマネジメント会議で議論されている。資料5ページに記載しているが、食に関したまちづくりや、新幹線や国体といったこともある。福井の食の魅力を武器に、アピールしていくことが必要ではないか。そういった際は、行政も対応が必要だが、実際に食を提供するのは民間事業者である。食の魅力についてワーキングの中で検討していただき、行政に対する提言、協議会に対する意見を述べていっていただく予定である。</p>
委員	<p>活性化協議会とマネジメント会議で、すり合わせがあるというイメージでよいか。</p>
都市整備室	<p>そうである。</p>
委員	<p>マネジメント会議を立ち上げて、チェックする機能を立ち上げ進捗管理を行うというのがこの事業の中心であるのか。</p>
都市整備室	<p>そうである。</p>
委員	<p>それを行わないとバラバラである。</p>
委員	<p>マネジメント会議で具体的に何を検討しているのか。1期と比較して何が足り</p>

	<p>ないのかといった議論をしているのか、プラスアルファとして追加することの検討を行っているのか。</p>
都市整備室	<p>両方の観点からマネジメントいただいている。当初 88 事業で始まった事業であるが、まちづくりの観点からこういう事業が足りないのではないかと指摘を受けて増えてきたところでもある。1つ1つの個別の進捗管理の細かな部分についても、マネジメント会議の中で1つ1つの事業の進捗についても併せてみてもらっている。主に、大きい視点でみていただくということである。</p>
委員	<p>具体的成果として、88 事業が 94 事業か。</p>
都市整備室	<p>目でみえる具体的成果としてはそうである。内容の修正についても、改善に提言もいただいている。</p>
委員	<p>進めていく中で、協議を行ってほしいと思う。活性化協議会は年何回開催しているのか。</p>
都市整備室	<p>協議会については、年 3 回である。年度によって若干の変動はあるが。主に報告という形で市から報告を行っている。</p>
委員	<p>マネジメントについてはどうか。</p>
都市整備室	<p>H25 年度は 6 回である。今年度は 8 回開催する予定である。</p>
委員	<p>それくらいやらないと具体的なことが議論できない。</p>
委員	<p>市民に対する PR という視点はどうか。市民に気持ちを一緒にしようとする盛り上げはないのか。</p>
都市整備室	<p>まちづくりを進めていく上での官民連携という点で、市民の方々に中心市街地とは何かという気持ちになっていただくため、PR していかないといけない。「ふく+（ふくたす）」を電車通りに設けさせていただいた。まちづくりに対する勉強会や情報発信を一緒にやりながら、一方的な PR ではなく意見交換を行いながらやっている。</p>
委員	<p>いろいろやっているのはわかっているが、意外に、まだ浸透していないのが現状かと思う。いいことをやっているが、意外と知られていない。広報の仕方をもっと追求して、ゆめまるを 1 番にしようとするくらいの勢いをもってスローガンをとりまとめるような議論が、マネジメントの中でされていないのか気になった。</p>
都市整備室	<p>マネジメント会議の中でそのことも議論されており、西口開発事業が H28 年 3</p>

	月に完成するのだがそのプロモーションも含めながら、まちなかのPR、もっと盛り上げていくにはどうしたらよいか、本年度議論させていただいている。
委員	「井」が食に関する取組として話題になっている。
都市整備室	マネジメント会議で検討いただいている中で、「福井」が話に出たので報道された。以前からH30年の福井国体開催、H37年の北陸新幹線開業の際、福井に来た人に福井の駅前はどう食を楽しんでもらえるかということであり、福井らしい食を食べていただけるお店をもう少し集中して出店していただくことで、商店街の空き店舗に食に関する出店いただくのであれば、今までの開業支援よりもプラスして支援をするという制度も昨年度から検討を行い、今年度から行っている。マネジメント会議での提言を受けながらやってきている。対外的なアピールが下手で弱い部分がある。「福井」みたいな、対外的に強い事業を考えていく必要があると思わないといけない。
委員	「食」に関してとなると主にどの所属が関わるのか。
都市整備室	今、部局横断の中で、食材の部分について話をしているところである。観光の視点から考えていくのは少し違うのではないかということから、所管についてもこれから検討していかねばならない。
委員	私はおもてなし推進委員もしているのだが、直接関係はないが観光とも結びつきが深いので、そういう所とも意見交換をしていく必要があると思うがどうか。
都市整備室	「食」についての検討をマネジメント会議の中でしているが、おもてなし観光推進室や商工振興課、農林といった関係する所属に出席いただきながら、まさに自分の所属に関係する課題だと認識いただき、情報共有しながら、検討しているところである。結論は出ていないため、今の段階ではこういった状況である。
委員	推進本部の本部長は、市長か。
都市整備室	そうである。今年度のマネジメント会議8回では、関係する所属が参加し、直接意見を聞いている。
委員	まだ、1年半なので成果はまだかと思うが、本部長(市長)の采配で中心市街地にかかる予算は増えているのか。感覚的でよいが事業規模が大きくなっているのか。
都市整備室	ハード事業のウエイトがかなり大きい。既存の事業の中でも改善を図っていく必要がある中で分析しにくい部分があるのだが、H25年度の事業費33億円、H26年度は38億円弱となっている。

委員	プロモーション事業など着手していくことになる、来年度に向け具体的な新しいプロジェクトなど立ち上げることになるかと思うが。
都市整備室	直接、中心市街地活性化計画に関わるプロモーション等の経費はこの事業の中で。
委員	“食”に関するものを来年度予算化すると、別に予算化することとなる。
委員	そうすると、この事業の予算としては「維持」ということになる。
都市整備室	そういう理解で、方向性を「維持」としている。
委員	299万円の委託料について、調査に関わる内容が多い。計画の検証を行うので当然であるが、300万円のうち、調査にかかるウエイトはどのくらいか。逆に、調査物だけで終わっていないかが心配である。知恵を絞る部分にどれだけコストがかけられているのか。
都市整備室	調査について委託しているのは、通行量調査である。分析等については内部職員で行わざるを得ないと考えている。
委員	分析して、どうあるべきかという洗い出しや提言の素案作りも担当課で行っているのか。
都市整備室	マネジメント会議を開催するにあたっての会議資料作成等も含めて、調査の分析も職員で行っている。かなりの事務量にはなる。

～～ 委員同士での協議 ～～

～～ 総括 ～～

座長	<p>委員会結果は「維持（要改善）」となった。マネジメント会議での意見や提言を具体的な取組に活かしてもらいたい。中心市街地活性化基本計画に触れる話かもしれないが、県都再生の取組について、プロモーション活動がまだ弱いのではないだろうか。プロモーション的なことをするには、県との連携、コラボレーション、歩み寄りが不可欠ではないかと考える。行政としての姿勢を転換して、県と連携して恐竜など県の資源も活かすことも必要なのではないか。</p> <p>プロモーションをもっと活発にやっていくためには、福井市の中心市街地がどうあるべきか、コンセプト的なものを明確にし、誰もがそうだと思うものを出していく必要があるのではないかと思う。そのようなことを積極的に打ち出して、計画を実効性のあるものとして取組んで、動かしていただきたいというのが、要望的な意見である。</p>
----	--

付帯的な意見として、歩行者調査で中学生以上しかとらえていないのは商業としての観点からしか見ていないのではないかという話もあった。

プラネタリウムなど「遊ぶ」とか「学ぶ」といった観点からすれば、もっと小さい子供まで広げて捉えてもいいのではないか。中心市街地イコール商業、経済だけでない部分ももちろんあるので、そういう視点も計画のチェックの中に入れてもいいのではないかというのが付帯的な意見である。もっと打って出るという形で、積極的にやっていただきたいということを意見として添えさせていただく。

以上である。